しいです。

差別をなくすには思いやりの気持ちが大事で、男の仕事、女の仕事という壁をつくらないことが大事だと思います。男女ではなく、社会人として考えればいいというのが父の言葉でもありました。

唐木 私は四人きょうだいで、兄が一人いてあとは全員、女の子です。家の中での差別は感じませんでしたが、兄が男の子ゆえに、女の子より放任されてきたかなと思います。私は通っていた女子短大で「女性らしく生きる」ということを学んだ気がします。

男の子だから女の子だから

市川 皆さん、それぞれ環境、立場は違うけど、親子関係の中での差別意識についてお話しいただきたいと思います。

唐木 父がサラリーマンで、子どもに接するのは昼間、母親だけでした。兄は親との関係が、私たち女の子より薄かったと思います。男の子だから、自分でやるでしょうという感覚があったのではないかと思うんです。母親と女の子は会話の量が多いけど、兄はあまり話し合えていなかったと思います。それで兄は寂しかったかもしれないと思います。

市川 親から「女の子だから」と言われたことはないですか？

唐木 大学進学を考えていたとき、「四年制大学は嫌だ」と母親に言ったとき、「女の子だから、短大でいいかな」と言われて、「えっ！」と思いました。

市川 家の中で、家事分担では、女の子だからということはなかったですか。

唐木 そういうのはなかったです。料理などは兄もしますし、家庭内で差別を感じることはなかったです。父親も洗濯物を干したりして。でも逆に、父親が洗濯物を干していると、世間的に見てどうなのかなと思ってしまう自分がいて、性別役割分業を否定しているような肯定しているような自分を感じて難しいなと思います。やらないと、なぜやらないんだろうと思うかもしれないけど、やっているのを見ると、ちょっと複雑な気持ちになります。どこかで知らず知らずのうちに教育されてきたのかもしれません。

小野 うちは、男の子だけなんですが、家事は大したことはやっていないけど、これだけはという担当が決まっています。それはテレビを見たくてもすぐにやるように言っています。

大塚 男の子にも技術として教えておかないと、将来、結婚して、いくら思いやりがあっても、結果として何もできないということになるかも。基本的なことは子どものうちから教えておく必要があると思うし、家族の中の役割としてやるべきことはあると思うんです。全員が出来て当たり前になってほしいですね。

門限は女の子に厳しい

唐木 うちに限らず、男の子は門限がなくて、女の子は門限がある状況ですよね。それは、女の子が夜に出ると危ないというのが理由からですが、今、逆に男の子に門限を設けて縛りつけておけば（笑）女の子ももっと自由に出られる、という話を友だちとしたことがあるんです。

小野 うちは男の子ですが、上の子は新宿の学校に行っているので非常に心配です。早く帰れと言いたいところですが、そこまでは言わないんです。

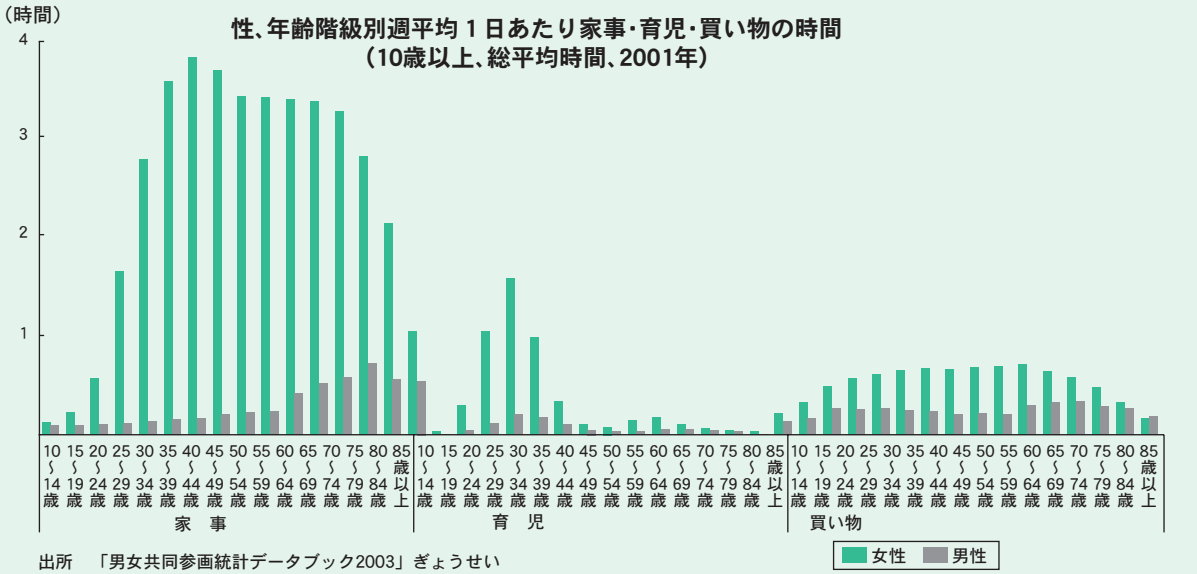
市川 女の子だったら？

小野 多分、黙っていると思うんです。何時何分に帰ってくることが大事ではなくて、普段から、危険な状況をどう考えているかということが大事だと思います。

男も技術が必要

大塚 家庭の中では、「男女の役割というより思いやりが一番大事」だと思います。共稼ぎの知人には、どんなに夜遅くなっても夫の役割部分には「絶対手を出さない」という人がいますが、できるほうがやればいいと思っています。

私の夫も基本的には、できるほうがやればいいと思っているようですが、思いつく幅が違うんです。思いやりがないわけではないんですが、ご飯を作るにも、技術をもっていないから、買ってきて子どもに食べさせたり。それはそれでいいんですが、できれば作って



出所　「男女共同参画統計データブック2003」ぎょうせい